

## 令和5年度 学力調査等について

### 1 調査について

	豊島区学力調査	子供たちが輝くクラスづくりのための 質問紙調査 (i-check)
目的	豊島区立小・中学校の児童・生徒の学力及び学習状況を把握するとともに、教員の指導方法の改善に資することで、一層の学力向上を図る。	児童・生徒及び教員との人間関係を分析し、把握することで校内での学級づくりやいじめの早期発見及び不登校の未然防止に役立てる。
対象	小学校第3学年から中学校第3学年	
教科	小3 : 国語、算数 小4 : 国語、算数、理科 小5～中1 : 国語、社会、算数、理科 中2・中3 : 国語、社会、数学、理科、英語	
実施日	令和5年4月24日(月)～5月30日(火)のうち、学校が指定した日	

### 2 区学力調査結果【平均正答率(%) 区平均正答率・全国平均正答率・全国との差】

#### (1) 小学校

	学年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年
国語	区	77.3	75.1	73.6	73.1
	全国	72.5	70.8	70.0	69.0
	全国との差(ポイント)	+4.8	+4.3	+3.6	+4.1
社会	区			62.1	65.9
	全国			59.1	65.4
	全国との差(ポイント)			+3.0	+0.5
算数	区	79.0	76.6	69.2	69.3
	全国	74.6	71.9	67.1	64.6
	全国との差(ポイント)	+4.4	+4.7	+2.1	+4.7
理科	区		62.1	66.2	59.4
	全国		63.0	66.8	61.1
	全国との差(ポイント)		-0.9	-0.6	-1.7

#### (2) 中学校

	学年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
国語	区	61.3	66.3	67.6
	全国	59.2	63.9	66.7
	全国との差(ポイント)	+2.1	+2.4	+0.9
社会	区	51.2	50.1	52.5
	全国	53.3	51.2	54.5
	全国との差(ポイント)	-2.1	-1.1	-2.0
数学	区	67.2	56.9	57.1
	全国	65.8	53.4	54.0
	全国との差(ポイント)	+1.4	+3.5	+3.1
理科	区	57.2	50.1	47.1
	全国	62.3	54.9	48.6
	全国との差(ポイント)	-5.1	-4.8	-1.5
英語	区		53.1	57.6
	全国		46.1	48.6
	全国との差(ポイント)		+7.0	+9.0

\*正答率  
設問に対して正答した児童・生徒の割合

#### (3) 課題

理科は全ての学年(小3～中3)で全国平均を下回っている。

(4) 理科 平均正答率 (%) ※全国と比較して、-0.1%～-1.9% -2.0%～

		小学校4年生		小学校5年生		小学校6年生		中学校1年生		中学校2年生		中学校3年生	
		区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国
基礎・活用	教科全体	62.1	63.0	66.2	66.8	59.4	61.1	57.2	62.3	50.1	54.9	47.1	48.6
	基礎	66.9	68.2	69.5	71.1	64.7	67.1	64.8	70.4	54.5	60.5	49.9	51.1
	活用	48.9	48.6	57.0	55.1	47.0	47.2	42.8	46.7	40.8	43.3	41.1	43.1
領域	物質エネルギー	59.4	60.7	62.0	61.7	51.8	55.0	58.4	62.5	49.5	49.4	44.1	44.9
	生命地球	64.8	65.3	70.4	71.9	62.6	63.8	56.5	62.1	54.6	58.8	50.6	53.7
観点	知識・技能	67.0	69.2	68.0	69.8	64.3	67.1	58.1	64.2	56.9	70.7	55.2	57.2
	思考・判断・表現	54.9	53.6	63.8	62.9	54.5	55.2	56.0	59.5	35.9	37.1	37.2	37.0
	態度	40.5	38.0	51.6	52.6	60.3	58.7	43.3	48.5	40.7	42.0	42.6	42.9
解答形式	選択	72.7	74.0	69.4	69.6	63.5	66.6	66.5	70.6	52.9	56.6	49.9	50.6
	短答	51.9	54.4	65.7	67.9	57.3	58.2	51.7	57.5	50.6	58.1	44.2	47.3
	記述	36.4	29.1	47.4	46.1	45.0	42.8	31.5	38.6	18.8	19.2	36.6	36.8

(5) 課題

- ・基礎・活用では「基礎」が、観点別では「知識・技能」が全学年で全国平均を下回っている。

3 i-checkの結果【肯定回答率 (%)】

(1) 小学校6年生

設問	区	全国
あなたが頑張ったとき、友達から、頑張ったね、すごいねとほめてもらったことがありますか。	86.1	88.0
クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。	57.9	62.0
自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりしていますか。	33.1	40.1
あなたのクラスには、いいところがあると思いますか。	92.9	94.9

(2) 中学校3年生

設問	区	全国
クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。	61.8	62.4
学校の授業では、友だちと教え合う時間がありますか。	86.6	87.4
あなたの気持ちを分かってくれる友だちがいますか。	89.2	91.0

(3) 対応事例

小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職が i-check の結果を分析する研修会を開き、児童一人一人の抱えている悩みや困りごとを全職員で把握している。自己有用感が低い児童は全職員で共有し、積極的に声をかけるとともに、週に1回の生活指導夕会で進捗を確認している。</li> <li>・「わかる授業」「魅力ある授業」の実現に向け、授業を通して学級所属感を高めるとともに、意見を受け入れられる経験を意図的に経験させる。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程に i-check による生徒指導の充実を位置付け、教師と生徒の間のコミュニケーションを通して常に生徒自身が自らの言動を振り返る態度を養わせる。</li> <li>・教育センターと連携して行う不登校対策会議において、生徒の状況把握や今後の指導の方向性を確認する際にも i-check を活用している</li> </ul>

## 5 授業改善推進プランについて

### (1) 目的

各種調査の結果や日頃の学習の様子から課題を見出し、目指す子ども像の実現に向け、各教科の課題解決策、具体的な授業改善の手だてを考え実践につなげる。

### (2) 内容

- ①授業改善推進プランの全体像（別紙1）  
（教員が全員理解できること、つかうことを目的に今年度から作成）
- ②目指す子ども像を基にした各教科での育てたい資質・能力
- ③現在の状況
- ④改善に向けた取組

### (3) 区の学力調査をうけた学校の取組例（理科）

	目指す子ども像を基にした各教科での育てたい資質・能力	現在の状況	改善に向けた取組
A 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の事物・現象について理解を図り、観察、実験などに関する基礎的な技能を身に付ける児童</li> <li>・科学的に解決するための問題解決の力を身に付ける児童</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果から、他の者に応用して考察することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具に触れる時間をできるだけ確保し、実感をもって実験ができるようにする。</li> <li>・予想→実験計画→結果→考察→まとめの基本的な流れで授業づくりを徹底する。</li> </ul>
B 中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識としての学習ではなく、現象の原理を理解しようとする姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項と現在の学習を関連付けて考察する力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項と関連付けて考察できるようにするために、過去の知識の振り返りを行う。</li> </ul>

### (4) 振り返りに関する取組例

	目指す子ども像	現在の状況	改善に向けた取組
C 中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことに興味・関心をもち、主体的に学ぼうとする生徒</li> <li>・他者の考えと比較し話し合うことで違いや共通点を見出し自らの取組をより良いものにしようとする生徒</li> <li>・授業を通して学んだことを論理的に整理、定着させ、さらなる探究活動を行おうとする生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準学力調査によると、正答率が区平均や全国平均よりも高くなっている。一方で考察し表現する問題では無解答が目立っていた。</li> <li>・生徒によって知識の定着の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元計画のチェックシートや毎授業のチェックシートを活用し、単元のゴールを明確に見据えて、毎時間のめあてを設定する。</li> <li>・自ら学習のめあてと照らし合わせて振り返る場面を設定する。</li> </ul>

### (5) めあてとまとめに関する取組

	目指す子ども像	現在の状況	改善に向けた取組
D 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話を通して自分の思いや考えを広げたり、深めたりして、言葉や文章で伝えることができる児童</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えに根拠や明確さがなくて、話し合いが苦手・自分の考えや思いを文章や言葉で表現することが苦手。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動のねらいを明確にする。</li> <li>・自己評価による振り返りを積み重ね、学習の課題と次のめあてを見付ける。</li> </ul>

### (6) 授業改善を図る取組

- ・教務主任による授業改善推進プランを実効性のあるものにするための企画、管理職へ提案。  
（10/12 教務主任研修において企画・提案するための研修を実施済）
- ・各校の授業改善推進プランに基づく授業の実施。
- ・指導主事等による学校訪問、授業改善推進プランによる授業改善について管理職への指導・助言。
- ・12月中に振り返り、次年度の教育課程に生かす。
- ・CBTの取組を区中研で広める。（11/8 発表会）